

## アトピーとの戦い

村田 和子



私の家族は夫、私、小六の英行と小三の敬憲の

たかのり

四人です。私が「十年たつたら家を建て替えたいね」と言つたら、二男の敬憲が「お母さん、もう僕家にいないよ」「え！ どうして」「だってプロ野球の選手になつているもの」ですって。去年からお兄ちゃんの後にくつついて、町の野球クラブに入り監督やコーチにしごかれても、いやだと言わず毎週日曜日の練習を行つていました。今年も四月から始まる練習が待ち遠しいようです。将来の夢は大きい！ ガンバレ！

敬憲が明るくなってきたのは小学生になつてか

らです。それまでが大変でした。

生後一ヶ月から頬に湿疹ができ始め、三ヶ月健診でアトピー性皮膚炎と診断されました。病院で「赤ちゃんにおっぱいをあげているのでお母さんが三大除去をして下さい」と言われました。三大除去食とは、卵、牛乳、大豆の入っている物を食べないで他の物で栄養を補うことです。毎日ノートに何を食べたか書き出し病院で先生や栄養士さんに見ていただきました。八、九ヶ月におむつかぶれや貨幣状湿疹が体中にできたり、病弱でよく風邪をひき月に何回も病院通いをしていました。

## 特集 <アレルギーとつきあう> ~~~~~

「どうして、湿疹ができるのだろう、こんなに頑張って除去をしているのに」「どうしてうちの子だけ」と思い悩みました。違う病院や皮膚科の医院も二、三か所行つてみました。小児科と皮膚科の先生のおっしゃることが違い戸惑いましたが、私は塗り薬をつけて治すより、除去食でやってみようと思いました。でも良くならず焦るばかり。夫は私に子どものことを任せきりで、私はいろいろし、夫や長男に当たり、悲しく涙が出て、いっそ子連れで死のうと思つたことさえありました。でも長男がいるし、今の医学で治らないことはないだろう、今に治ると信じ、「やるだけの事はやってみよう」と思うようになりました。

二歳の時、ぜんそくがでて夜中に病院へ吸入は何度か行きました。少しでも体力がつき友だちをたくさん作つてほしいと思い三年保育で保育園に入れました。卵、牛乳、大豆の入っている給食やおやつの時は家から持つて行きました。

担任の先生が、皆と同じように食器に食べ物を移して下さいました。湿疹がまたできたので、食器に油が付いていたのか、洗剤がいけないのかと心配になりました。調理師さんに調味料を持って来てくれれば作つて下さると言われ、これで少しあは楽になると喜んだのも束の間、お鍋は前に卵や牛乳を使って料理したお鍋ではないだらうか、アレルギーの強い子は、お鍋を洗つてもそれを使つと反応すると聞いていましたので、私はすぐ神経質になつていました。もう保育園をやめるしかないと想ひ、慣れてきたのに三ヶ月でやめてしましました。

そしてお弁当の幼稚園が近くにありましたので移りました。アトピーは良くならず、米、小麦もいけないと言われ、主食にきび、粟、ひえ、アマランチスを食べ、調味料もきびしそうゆ、粟みそなどに替えました。でも湿疹は良くならず、病院の先生もお手上げで皮膚科を紹介され、薬を全身に

塗られミイラのように包帯されました。「家でも包帯をして下さい」と言われ、夫と二人がかりで冬の夜ストーブの前に立たせ「動いちやダメ」と言いながら巻きました。体をかいていると「かいちやダメ」「どうしてかくの」「だつてかゆいんだもの」。敬憲も私がいつもいらいらしていてため息ばかりついているので、暗くなり口数が少なくなってしまいました。

病院で「敬憲君が一番大変なのよ」と言われ、あ、なんだ、「かいちやダメ」と言つても私自身かゆい時かいてしまい、我慢ができないのに、何を言つているのだろうと、反省しました。私が落ち込んで暗くなっている時、夫が冷静になつて私の話を聞いてくれるようになりました。そしてみんなで敬憲を励まし、上の子は自分だけ市販のお菓子を食べると敬憲が羨ましがるので我慢をし、家族みんなで同じ食事をしました。

年中の十一月、東京のアトピーで有名な先生が

いる病院で診てもらつたところ、IgEの数値が高いといわれ、一人で一ヶ月半入院しました。心配で夫と交替で週四回程通いました。敬憲は、私にいやなことなど話さず明るくしていました。夜はかかないようにと手にミトンをされ、ベッドに縛られたそうです。食事は回転食できび、粟を主食にし、魚、肉はうざぎ肉、カエル肉などがでした。家の中のそうじをして下さいと言われ、ふとんは丸洗いに出し、隅々までそうじをしました。一ヶ月半で皮膚がきれいになり帰つて来ました。でもどうしてか、三日位したらボツボツと湿疹ができてきました。家でも回転食にしたのに、食費が肉、調味料など普通の三倍位高く、お金がかかつても治してやりたいと思つていたのに、ショックが大きかったです。それから民間療法をしたり、いいと聞いたことは色々しました。

年長の十一月、友達から「東京・五反田にある病院の食養内科に行つてみれば」と勧められ、思

## 特集〈アレルギーとつきあう〉~~~~~

いきつて入院しました。その病院は自然食の考え方

方で米は五分づき、野菜、魚、大豆、ごま等の食事で敬憲はとても喜びました。色々なメニューを出して下さり、食事が楽しみでした。

敬憲は見る見る湿疹が良くなり、肌がつるつるしてきました。私は栄養士さんから料理を教わり、一か月半で退院しました。

敬憲が小学校へ入学した頃は目の周りに赤く少し湿疹ができていただけでした。

小学校へ入ってからは、体力もついたせいかアトピーは少し出てもひどくなりませんでした。季節の変り目にぜんそくが出ますが、ぜんそくも出なくなり、丈夫な体になつてほしいと願つていまます。まだ卵、牛乳はあまり食べていません。親の管理できるのも、もう少し、その後は自分で管理しなければなりません。

幼稚園の時、敬憲が「どうして僕アトピーになつちゃつたの」と何回も私に聞きました。私は

そのたびに胸が痛くなりました。

除去食をするまでは、私たち家族は平氣で何でも食べていました。市販の野菜、安い卵、肉など。でもアトピーは子どもを通じてあなたの食生活が間違っていると神様が教えて下さったのだというアトピーの本を見ました。うちには、敬憲を通して添加物や農薬の少ない物を選び、食の大切さを知り、たくさんの人たちと接し、アトピーの会で会員同志悩みを話し合ったり、遊びに行ったり料理講習をするようになりました。

前、ニュースでいじめに合い、中学生が自殺したと聞き、敬憲が「僕は死なないよ。だってまだラーメンもハンバーガーもアイスもケーキも食べてないんだから」と言いました。私は、こんなにも思っているんだとびっくりしました。

これから先、本人も大変ですが、自覚し、家族全員、力を合わせて生きていきたいと思います。

(アトピッ子・みるくゼークの会)